

令和4年6月16日

《続報！！》バガスチャレンジ！～第2弾～

『学び、実践しようSDGs！春休み自然体感キャンプ(3月28日(月)～29日(火))』で、埋めたバガス容器はあれからどうなったの？

5月7日(土)『家族で学び、実践しようSDGs！春の自然体感キャンプ』から37日後の6月12日(日)に行いました『家族で学び、体験しよう！SDGs自然体験キャンプ』にて、バガスチャレンジ！(バガス容器の生分解性実験)の観察を行いました。

《前回のおさらい》

前回の中間観察では、バガス容器の形こそ残っているものの、薄く、柔らかくなり、所々穴が空いており、着実に分解が進んでいることが、観察できました。



39日後の様子(5月7日(土)：中間観察)

さて、3月29日(日)に土に埋めてから75日が経ちました。今回の観察では、どのような変化が見られたのでしょうか？



土に埋めてから、75日が経過したバガス容器の様子

《次のページへ進む》

《見比べてみましょう》

<p>3月29日(日) 埋める前のバガス容器</p> 	<p>5月7日(土)~39日後~ 中間観察時のバガス容器 (※写真はAのケース)</p> 	<p>6月12日(日)~75日後~ 最終観察時のバガス容器 (※写真はAのケース)</p> 
--	---	---

A・B・Cのケース内に埋めたバガス容器は、気候や分解条件の関係で75日間では、全て完全分解することはできませんでした。

しかしながら、Cのケース(粘土質の土)では、他の2つのケースよりも早く分解が進み、ほとんど分解が完了していました。Aのケース(さらさらした土)とBのケース(粘土質の土+さらさらした土)内に埋めたバガス容器も前回に比べ、さらに分解が進み、手で触ると崩れてしまうものばかりで、頑丈だったバガス容器が、微生物などの力により分解していることが見て分かりました。

分解の差について、少し考えてみるとそれぞれのケース内の土に微生物の数は分かりませんが、土に含まれる水分量も分解の速度に影響を及ぼしているのではないかと感じました。

75日間で行った今回のバガス容器の生分解性実験では、粘土質で保水力のある土(Cのケース)に入れたバガス容器は、ほとんど分解することができた。しかしながら、AのケースとBのケースについては、触ると崩れてしまうけれど形状が残っていたので、この2つのケースについては、延長して経過観察していくことにしました。



公益財団法人 **愛知県教育・スポーツ振興財団**

Aichi Education & Sports Promotion Foundation

企画推進課 SDGs キャンプ係

〒460-0007 名古屋市中区新栄1-49-10

電話番号：052-241-9101

ホームページ <https://www.aichi-kyo-spo.com/>

